

被災地インターンシップ 陸前高田で入校式

岩手県陸前高田市や宮城県気仙沼市で19日、中小企業などで学生たちが仕事について学ぶ「インターンシップ」事業が始まった。民間団体の主催。仕事を通じて東日本大震災の被災地を支えてもらう狙いがある。インターンシップを被災地で展開するのは初めての試みだという。

19日、陸前高田市内で入校式が開かれた。中国、四国、九州から参加した学生

結集の元気学生

ら18人が出席した。広島市立大3年、土肥安希乃さん(20)は「被災地のために何かしたいと思っていて。東北を元気にする活力を生み出したい」と話した。

欠席した3人を含む計21人が20日から、しょうゆ製造「八木澤商店」や高田自動車学校など市内4社のほか、気仙沼市のNPO法人1団体で無償で働く。主催は社会起業家を育成する民間団体「ソーシャル

ビジネス ネットワーク大 学」(東京)。参加者から起業家を育てるのが目標で、計90人を9月ごろまでに4期(各2週間)に分けて派遣する予定。今回が1期生にあたる。

八木澤商店の河野通洋社長は、参加者に「陸前高田市では多くの企業が被災し就職の受け皿がない。ここでぜひ起業してほしい。私たちがフォローする」と訴えた。 【安藤いく子】